

# 食育ぬりえ絵本の製作と登場する調理の実習を関連させた 家庭科学習の効果

— 高等学校「家庭基礎」の場合 —

日浦美智代 柴 静子 高橋美与子 一ノ瀬孝恵  
佐藤 敦子 三根 和浪

## 1. はじめに

平成22年度の学部・附属学校共同研究においては、国際理解教育の視点から、ぬりえ絵本製作を通してモン族の子どもたちと心を結びあうことを可能にする高等学校『家庭基礎』の保育学習を構想し、実践して、効果を検証した<sup>1)</sup>。本研究ではこの経験を踏まえて、今日、社会的・教育的に緊急の課題とされている『食育』とぬりえ絵本を関連させることにより、保育と食生活の交差領域の学習を構築することができると考えた。

2005年の食育基本法の成立から数年を経て、多方面にわたる食育実践の積み重ねが着々となされているにもかかわらず、これの教育的効果については十分に明らかにされているとは言い難い。その原因の一つは、介入手段の適切性の問題であると考えられる。そこで本研究においては、高校生の食育のためのユニークな介入手段として、アメリカのDover社が販売しているM. Wellington著の「食育ぬりえ」<sup>2)</sup>に着目し、これを原型とした自作のぬりえ絵本の製作と関連の調理実習を組み込んだ「家庭基礎」の食生活領域の授業を構想・実施し、その効果を検証することにした。

本報告での授業は、附属福山高等学校で実施したものである。まず1年生1クラスを対象として、生徒をグループに分け、5種類の食育ぬりえ絵本から、取り組む絵本を選択させた。選択した絵本のテーマ（「ピザ」、「カップケーキ」、「スナック」、「朝食」、「クッキー」の5種類）について簡単な調べ活動を実施させるとともに、テーマと関連した調理を自由献立として作らせ、お話に反映させた。このようなぬりえ絵本を製作した生徒たちは、「ももやま保育園」での幼児観察実習の際にこれを持参し、園児達に読み聞かせを行った。さらに生徒相互の読み聞かせをクラスで実施した。研究

のステップ毎に、各種のアンケート調査によって、この授業の効果を測定した。

## 2. 附属福山高等学校での授業実践

「食育ぬりえ絵本の製作と、ももやま保育園での読み聞かせの授業」は、2011年9月29日～11月24日のうち14時間、附属福山高等学校1年E組（40人）において実施された。授業者は高橋美与子教諭であった。

本授業の目標としては、以下の3つを設定した。

- (1) 絵本の製作や園児への読み聞かせを通して、0歳からの読み聞かせの大切さや、絵本が乳幼児とコミュニケーションをとる際の手段として有効であることを理解する。
- (2) 絵本の題材として食育を取り上げ、グループごとに乳幼児に伝えたいテーマを設定し製作に生かすことで、食生活の学習内容と関連させながら食育への関心を高め知識を増やす。
- (3) 保育園での読み聞かせをするときに応答的保育やオノマトペの効果を理解し取り入れ、食育のテーマにそった内容を通して食の大切さを園児に伝える。14時間の指導計画は次のとおりであった。

(指導計画)

- ①絵本の紹介と効果について …………… 0.5時間
  - ②応答的保育について …………… 0.5時間
  - ③食育について …………… 1時間
  - ④ぬりえ絵本製作のための調理実習 …………… 3時間  
(準備を含める) 課外で作り方の調べ学習
  - ⑤ぬりえ絵本の製作 …………… 6時間  
課外でテーマについての調べ学習
  - ⑥保育園での読み聞かせと事後学習 …………… 3時間
- 次頁の表1に、全14時間の学習過程を示した。

Michiyo Hiura, Shizuko Shiba, Miyoko Takahashi, Takae Ichinose, Atsuko Sato, Kazunami Mine; Effect of High School Homemaking Learning that Associated the Production of Picture Books for Shokuiku and Training of Cooking

表1 附属福山高等学校での絵本製作と読み聞かせ学習の過程

学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
1. 絵本の効果	<p>○0歳から絵本の読み聞かせをしている親子や保育園の事例を知ることで、乳児の時期から絵本に興味を持つことができることを理解する。</p> <p>・じっと集中して聴いたりオノマトペに声を出して笑いながら聴いたりしている乳児の様子を写真で見る。</p> <p>○ブックスタート運動の効果を知り、乳児期からの絵本の読み聞かせが親子の関わりを深めることに役立つことを理解する。</p> <p>・子どもの学力の向上や親子一緒に時間が増えることで会話が盛んになるなどの効果。</p>	<p>・布絵本や紙絵本、外国の絵本など様々な絵本を見せながら進めていく。</p> <p>・乳児期からの読み聞かせを、親があまり行っていない実情を知らせ、課題意識を持たせる。</p>
2. 応答的保育	<p>○ 応答的保育の方法や効果を理解する。</p> <p>・ことばの応答（発問，受容，過程）心の応答（共感の表現）によってこどもの思考は活性化され、聞き入れてもらえた満足感から自発性を育てることができ、保育者とのコミュニケーションが発展していく。</p>	<p>・実際の会話文を提示し、発問，受容，過程のそれぞれの方法をわかりやすく示す。</p>
3. 食育	<p>○製作する絵本の題材が食育であることから、どんなテーマが考えられるのか、あげる。</p> <p>・栄養バランスのとれた食事，・好き嫌いをしてはいけない，・砂糖を食べ過ぎてはいけない，などの乳幼児に知らせたいテーマ</p> <p>○ 読み聞かせの年齢別に4人のグループを作り、絵本のテーマや内容を話し合う。</p> <p>・嫌いなにんじんもすり潰してホットケーキに加えるとおいしく食べられる，・朝ごはんを作ろう，など。</p>	<p>・フードマイレージやトレーサビリティなどの現代の食生活の分野で課題になっていることばの意味を予備知識として理解させる。</p> <p>・テーマについて調べたことを絵本の内容に入れさせる。</p>
4. 調理実習	<p>○ 絵本の製作に関連のある菓子や料理を作る。</p> <p>・カップケーキ，・クレープ，・クッキー，・ピザなど。</p> <p>・作っている過程や出来上がりを写真にして、絵本に載せる。</p>	<p>・調理実習の内容をどのように絵本に生かすのかを考えさせる。</p>
5. ぬりえ絵本の製作	<p>○食育を題材にしてぬりえ絵本を製作する。</p> <p>①ストーリーを考える。②テーマをどのように表現するのかについて考える。③ウェリングトンのぬりえ絵本のどのページを利用するのかを決める。④ぬりえを塗る。⑤ことばをつける。</p>	<p>・乳幼児の興味関心をひくように考えながら製作を進めさせる。</p>
6. 読み聞かせの練習	<p>○保育士たちはどんな点に気をつけて読み聞かせをされているのかを資料から読み取る。</p> <p>・子どもたちの表情に注意しながら、抑揚をつけてはっきりと読むなど。</p> <p>○読み聞かせをするときに食育のテーマをどのようにして示すのかを考える。</p> <p>・好きな食べ物を聞きながら進めていく・地図を見せて、出てくる国をあてるクイズを取り入れる，など。</p>	<p>・乳幼児とのコミュニケーションのとり方について、様々な点から考えさせる。</p> <p>・園児が熱心に読み聞かせを聴いている様子の写真を見せて、意欲を喚起する。</p>
7. 保育園訪問と事後学習	<p>○応答的保育やオノマトペの効果思い出して、取り入れるようにする。</p> <p>○各年齢別に分かれて、子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせを行う。</p> <p>・まず全体に向けてぬりえ絵本の読み聞かせを行い、その後、絵本をもう一度読んでほしいと希望する乳幼児に向けて行う。</p> <p>○学校に帰ってから、感想をまとめる。相互評価を行う。</p>	<p>・安全やマナーに気をつけさせながら、前時に考えたことを生かして楽しく実習ができるように促す。</p>

### 3. 担当教師による授業の観察と評価

14時間の授業を実施して、高橋教諭は次のように、一連の授業を評価した。

#### (1) 食育を題材にしたことについて

ももやま保育園には、毎年絵本やおもちゃを手作りして訪問している。例年は、自分たちで絵本の題材を決めて製作するが、今年度のように全体で題材を決めて絵本の製作を行ったのは初めてである。題材が「食育」ということで、食生活の授業との関連を図ることができた。「家庭基礎」2単位という時間が制限された中で、授業時間の確保という点でも効果的であった。また、食生活については日頃から課題を持っている生徒も多く、ぬり絵の材料として提示したアメリカの絵本が「ピザ」「クリスマスクッキー」「ブレックファースト」「カップケーキ」「ヘルシースナック」という内容で生徒にとって取り上げやすいものだったということもあり、乳幼児に伝えたいテーマを考えると、話し合いがスムーズに進んでいった。

#### (2) 調理実習を取り入れたことについて

それぞれの「好き嫌いをなくそう」や「フードマイレージをわかりやすく示したい」などのテーマで、グループごとに何を作るのかを決めて実習を行った際には、材料の準備、手順の計画など全て自分たちで考えることになったが、意欲的に協力して進めることができた。材料代が制限されるなかで、いかに節約するかを考えたり、材料はなるべく環境に優しく安全なものを選びたいと、購入する店を選んだりといったような様子も見られた。率先してメンバーを指導する生徒がそれぞれのグループの中から自然に出てきていた。調理実習をしながら、技術の向上もはかることができたし、実際に作ることで、乳幼児に伝えたい内容もより明確になっていった。さらに食の分野についてそれぞれが考えを深めることができたという大きな効果もあった。調理の途中や出来上がりの写真を絵本の中に取り入れることで、絵本の完成度もより良いものにすることができた。

#### (3) ぬり絵絵本を利用したことについて

絵本の製作では、絵も内容も全てオリジナルという場合もあるが、ぬり絵にすることによって、絵が苦手な生徒にとっても取り組みやすかったということがあげられる。そのような生徒にとっては、自分で描くよりもある一定以上のレベルまで到達できるという利点がある。全てオリジナルで製作するときは、どのような内容にするのかを話し合うために多くの時間を使うが、この度は、ぬり絵絵本を参考にして内容を決定し、早めに実際の製作に取り掛かれたグループが多かった。パターン化してしまわないかという心配があった

が、塗るという作業だけでもぬり方は様々で、絵の取り入れ方などにもそれぞれのグループの個性が表れていた。熱心にぬりえ絵本を製作している生徒の姿が印象的だった。ただ、ウェリングトンの絵本の絵だけを取り入れて内容はそれぞれ独自に考えるように指導したが、絵本の内容をそのまま取り入れるグループが多かったことは残念である。また、絵を描くのが得意な生徒がいるグループでは、ぬりえを一部だけしか使わず製作したグループもあった。さらには、ぬりえができることで完成という意識があったり、時間的にぬりえで精一杯であったり、動きをつけるなど遊びの要素を絵本のなかに取り入れる、紙以外の材料を使うなどの工夫があまりみられないグループもあった。

#### (4) グループのテーマの掘り下げ方について

食に関するそれぞれのグループのテーマを乳幼児に伝えていくという点で、課題が残った。まず何をテーマにするのかを考えてからそのテーマについて下調べを行い絵本の製作に入ったが、下調べの時間を授業の中でとることができず、その内容が不十分なものになってしまったグループもあった。また、製作をしていく段階で、実習で実際に作ったことが生徒たちの印象に強く残り、「・・・を作ろう」という点にポイントが移っていったり、乳幼児にも理解できるように簡単にしなくてはいけないと考えたりしたことで、最初に考えていたそれぞれのテーマについての内容の取り入れ方が浅いものになってしまったグループができた。反対にその点にこだわり過ぎて難しい内容になってしまい、読み聞かせの途中で説明が長くなったというグループもあった。やはり乳幼児と接する機会が少ないため、乳幼児の理解力や食生活の実態まで考慮しながら絵本を製作するという事は生徒にとって難しいところがある。

#### (5) 読み聞かせについて

読み聞かせの留意点を考えて練習したが、その時間が十分にとれなかった。うまくできるのかと不安に思いながら保育園を訪問した生徒が殆どだったが、どの年齢の子どもたちとも絵本を媒介にして上手にコミュニケーションをとることができ、子どもたちと充実した時間を過ごすことができた。

実際に読み聞かせを終えた感想には、以下のようなものがある。

・絵本を読むとき「この食べ物は何かわかるかな？」とピーマンやトマトを指差しながら聞くと、みんな大きな声で答えてくれた。ずっとみんなしゃべらなかったのが、絵本を読んで「これ何かな？」と聞くといっぱいしゃべってくれたのがとても嬉しかった。(1歳児担当、「ピザ」のグループ)

・予想外に絵本の動物のページで盛り上がってくれた。動物のページにすごく興味を持ってくれたので、そこに一番時間をかけて「これは何かなあ?」「なんて鳴くかな?」と聞くとみんな答えてくれた。絵本を読むときには、せりふと効果音の部分を強調するようにした。質問すると元気に答えてくれて、コミュニケーションがとりやすかった。(2歳児担当,「カップケーキを作ろう」のグループ)

・読み聞かせは思っていたより難しかった。でも、3歳の子どもたちはみんな一生懸命に聞いてくれたので、良かった。言葉遣いに気をつけないといけないと感じた。自分が笑顔でいることは、子どもを安心させるのかなと思った。(3歳児担当,「クリスマスツッキー」のグループ)

・絵本は楽しんでくれるかどうか不安だったけど、クレープに入れるくだものやお菓子を一緒に考えながら読んでいくというやり方が子どもたちに結構うけた。子どもたちが喜んでくれたのがすごく嬉しかった。コミュニケーションをとるために、最初に話をちゃんと聞いてあげることが必要だと感じた。(4歳児担当,「クレープを作ろう」のグループ)

・読み聞かせは思ったより大変で、相手の反応をうかがいながら読める保育士さんはすごいと思った。緊張していたため、いいできではなかったと思うけれど、真剣に聞いてくれて嬉しかった。自分の一言にも様々な反応があって、子どもたちもいろんなことを考えているんだと分かった。一人ひとりしっかりした個性があるのだと分かった。相手のレベルに合わせてふれあうことができるようになったと思う。(5歳児担当,「マドレーヌを作ろう」のグループ)

#### (6) 総括

実際に読み聞かせをしている生徒たちや聞いている乳幼児の様子を見て、食べ物というのは、年齢に関係なく興味をかきたてる要素があるので、今回、食育をテーマにしたことで、読み手と聞き手が共に楽しく絵本の読み聞かせに参加できるという長所が生まれたということに改めて気づかされた。生徒の感想にもあるように、ももやま保育園の子どもたちは、元来、絵本が大好きだが、いつもにも増して子どもたちが自然に絵本に引きつけられていたように思う。

以上のような高橋教諭の評価から、アメリカの食育ぬりえ絵本を利用して、新たに独自のぬりえ絵本を製作し、保育園で読み聞かせをした今回の実践は、これまで以上に高い学習効果を上げたことが認められる。

それでは、この実践の対象者であった生徒たちには、どのような意識や行動の変化がもたらされたのであろうか。次に、アンケート調査から見てみたい。

## 4. アンケート調査に見る食育ぬりえ絵本製作学習の効果

### (1) アンケートによる学習の事前と事後の比較

図1は、食育ぬりえ絵本製作の学習前と学習後の生徒の意識の変化を示したものである。質問項目は事前・事後とも同じ意味をもつように問いかけた。質問項目は次に示すとおりである。

#### (質問項目)

- 
- Q1 自分で料理をして、身体の健康を維持することは大切だ。
  - Q2 市販のおやつに変わる手製のおやつ作りをしてみたい。
  - Q3 料理にあたっては、素材の安全性を重視することが必要だ。
  - Q4 よい食生活のために基礎的な食品・栄養の知識を身につけたい。
  - Q5 よい食生活のために、基礎的な調理技能を身につけたい。
  - Q6 料理をすることは、人生を楽しくしてくれる。
  - Q7 地産地消は大切だ。
  - Q8 調理実習で料理した献立を家庭でも作ってみたい。
  - Q9 調理実習で料理した献立の作り方を家族や友人に伝えたい。
  - Q10 料理をする時間があれば、料理をしたい。
  - Q11 食育ぬりえ絵本の製作は食生活改善のきっかけになる。
  - Q12 食育ぬりえ絵本製作の学習をすることには意義がある。
- 

各質問項目について、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」をそれぞれ5点、4点、3点、2点、1点とした5件法で尋ねた。図1の帯グラフは、上段が事後、下段が事前を示し、それぞれのグラフの中に示された数値は、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」と答えた生徒の割合である。

Q1からQ12の全ての質問項目において、事後の方が肯定的な反応を示していることから、食育ぬりえ絵本製作学習は、これらの側面において効果を上げたといえる。

また、エクセル統計を使用して、各項目の事前と事後の得点について、対応のある2群の母平均の差の検定を行ったところ、質問4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12については、1%の危険率で有意な差があり、質問2と9については5%の危険率で有意な差があった。

以上から、この度の食育ぬりえ絵本の製作学習は、対象者の食生活を見直し、食や栄養に関する知識と技能を身につけたいと思う気持ちに拍車をかけ、さらには人生が楽しいと思える方向に若者を導く働きをしているといえそうである。

### (2) 食育ぬりえ絵本を製作した生徒の自己評価

表2は、食育ぬりえ絵本を製作した生徒の自己評価に関わる質問項目と得点の平均値である。これも、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の5件法でぬりえ絵本製作に関する生徒の意識を調査したものである。紙幅の都合上、集計したデータを全面掲載することは不可能であるので、各項目の得点の平均点を提

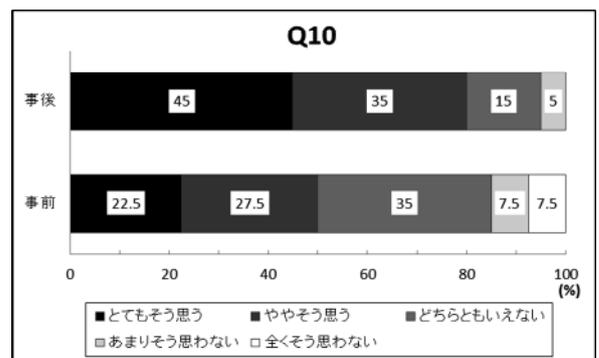
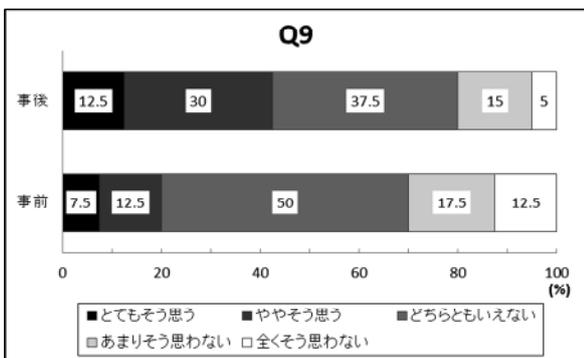
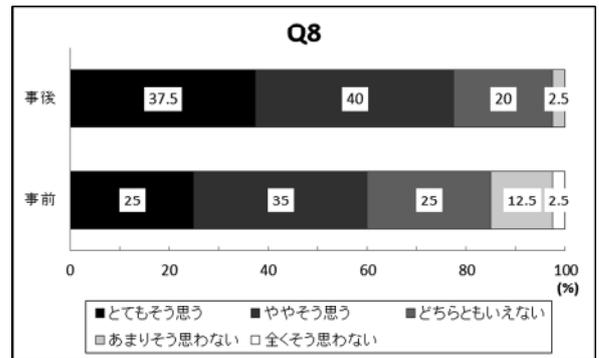
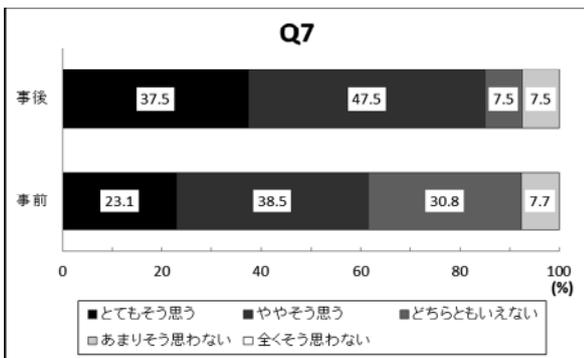
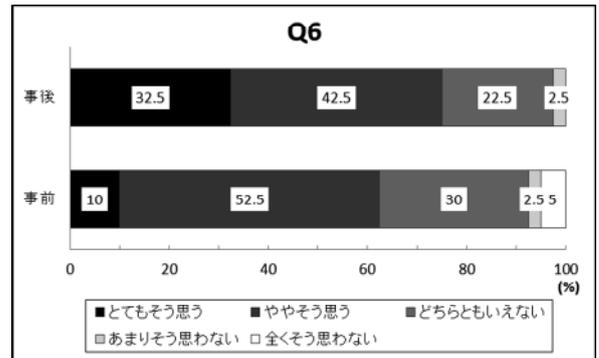
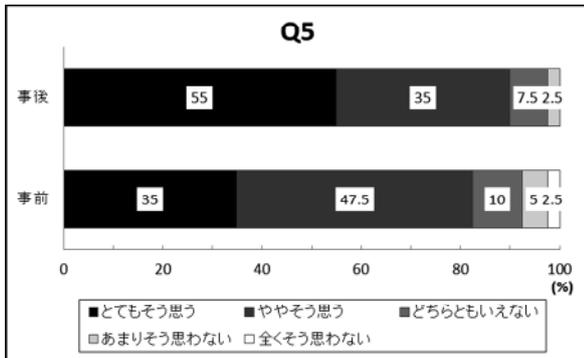
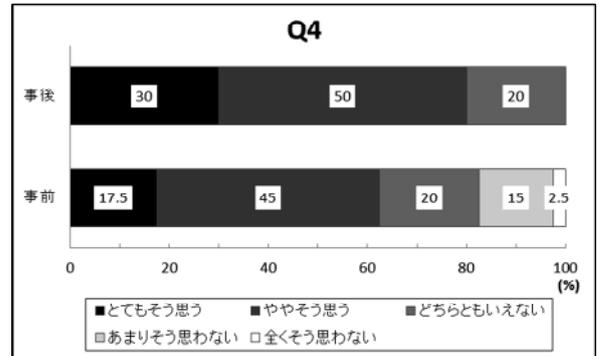
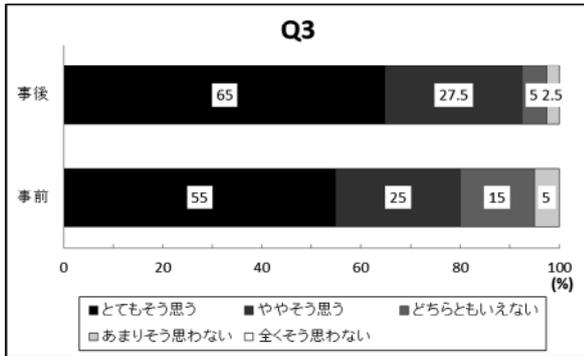
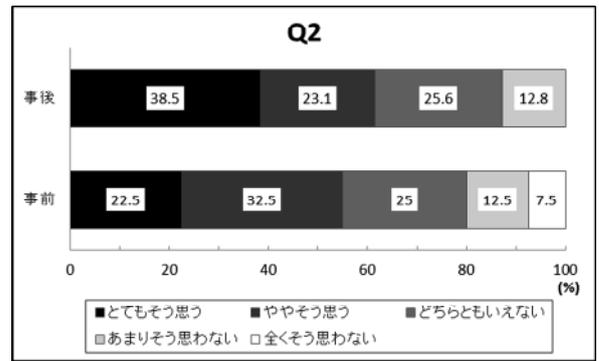
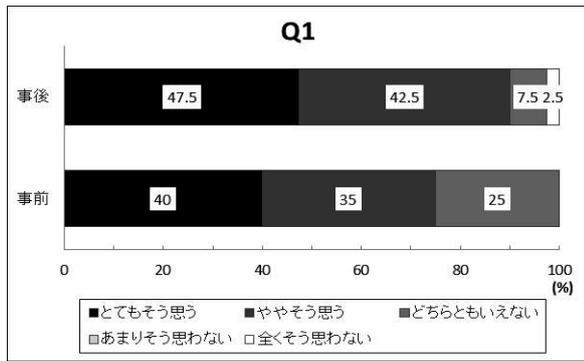


図1 食育ぬりえ絵本製作学習の事前と事後の意識(1)

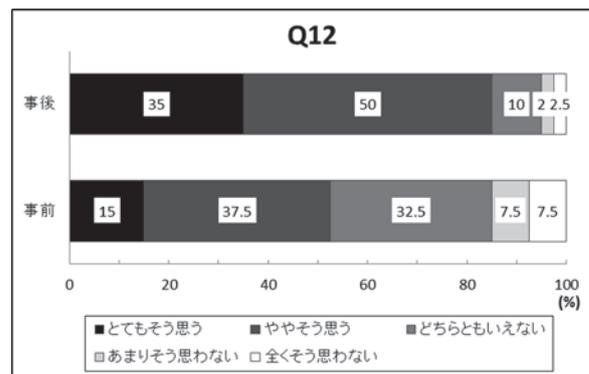
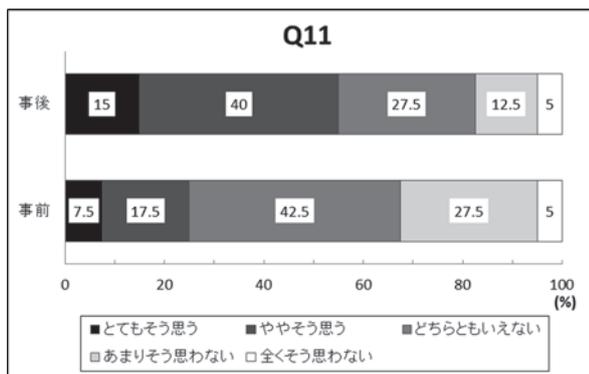


図1 食育ぬりえ絵本製作学習の事前と事後の意識(2)

示することに留めたい。

高等学校家庭科において、幼児とのふれあい体験を実施し、その際に手作り絵本を持参させ、読み聞かせを行わせる事例は少なからずある。しかし、この度の研究に導入したアメリカの食育ぬりえ絵本と同質のものを利用して、製作時間を短縮し、かつ内容を充実さ

せている実践例は見あたらない。表2の質問項目と平均点が示すように、絵本製作は、他者と協調しながら、楽しく物事を成し遂げるトレーニングの場になり、また、絵やことばを選択し、工夫しながら物語を紡いでいくことで幼児理解が深まるという得難い特徴を持っている。さらには、ぬりえを利用することで、絵本の完成度が高まることも期待できる。

表2 自己評価の質問内容

質問内容	平均点
1 友だちと協力して絵本製作を行うことは楽しかった。	(4.43)
2 絵本製作では、グループで意見を出し合い、調整しながら進めた。	(4.13)
3 絵本製作を通して、協調性を身につけることができた。	(3.88)
4 絵本製作においては、幼児にとってどのような絵本がよいのか、幼児の目線に立って考えた。	(3.9)
5 絵本製作においては、幼児の目を引きやすいように配色を工夫した。	(4)
6 絵本が楽しいストーリーになるように、オノマトペを入れるなど、ことばや文章の工夫をした。	(3.83)
7 絵本製作にあっては、幼児に作者側のメッセージが伝わるように工夫をした。	(3.75)
8 絵本製作を通して幼児に対する理解が深まった。	(3.88)
9 ぬりえを利用することで、限られた時間の中で効率よく絵本を製作することができる。	(3.95)
10 ぬりえを使用することで、自分で絵を描くより完成度が高まると思う。	(4)
11 ぬりえを使用することで、自分の満足する絵本を製作することができると思う。	(3.7)
12 絵本は見るだけでなく、触れたり、感じたりすることで感性を高めるものだと思う。	(4.28)
13 絵本製作を通して、絵本の短い文や絵に奥深さを感じるようになった。	(4.03)
14 絵本製作を通して幼児が好きになった。	(3.88)
15 機会があればまた絵本製作を行いたい。	(3.6)

分断されがちな現代社会にあっては、異種コミュニケーションが大きな役割を果たすといわれている。自己評価結果が示すように、今回のぬりえ絵本の製作とその読み聞かせは、優れた異種コミュニケーションの媒体であることが確認できた。

## 5. おわりに

本研究において検証された点は、大きくは次の2つであった。1つは、グループで食育ぬりえ絵本を製作することによって、生徒は、「楽しい」、「癒された」、「協調学習ができた」と感じ、学習の効果が大きかったことである。2つめは、絵本の内容とリンクさせた調理実習が、食生活への興味を増加させ、生活実践力の育成に繋がること示唆された、ということである。

このような利点をもつ学習であるので、今後、機会を得て、広く教育現場に普及させることが望まれる。

## 注

1) 柴静子, 日浦美智代, 一ノ瀬孝恵, 高橋美与子, 佐藤敦子, 三根和浪「絵本の製作と読み聞かせを通してモンの子どもと結ぶ家庭科授業の研究」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』, 第39号, 2011, pp.313-318.

2) M. Wellingtonは、アメリカの絵本作家である。今回利用したぬりえ絵本は、Dover社から5冊のシリーズとして発行されている。ある一家の姉と弟が簡単な調理をすることで周囲が喜ぶという単純なお話であるが、食育ぬりえとしては高水準である。